



1



3

(雪はともだちinソルファ) 1_教わったとおり、真剣な表情でハの字をキープ 2_最後の雪合戦も元気いっぱい (わんぱく学校スキー教室) 3_スムーズな滑りを見せる上級生 4_何度転んでも、果敢にチャレンジ

転んで笑って、また滑る—— 寒さを忘れるスキー・スノーボード体験

ソルファ・オダスキーゲレンデが7年12月30日からオープンし、多くの来客でにぎわいを見せています。

1月6日には小田小・大瀬小の児童が「雪はともだちinソルファ」(小田・大瀬自治センター共催)に参加しました。子どもたちはオープンから間もないファミリーコースで、スキーやスノーボードに挑戦。初めてスノーボードを体験した子は、尻もちをつきながらも次第にコツをつかみ、終盤には補助がなくても滑れるようになりました。武田依於さん(大瀬小6年)は「近くにこんないいスキー場があるのはすごい」と満足そうに話しました。

また1月20日には「わんぱく学校スキー教室」(内子東自治センター主催)を開催。石畳小・立川小の児童と保護者、教員などが参加し、学年や経験に応じたグループで練習しました。初参加の1年生も「板を『ハ』の字にして」「おへそを曲がりたい方向に向けて」などと教わり、上手に滑走。高学年の中にはジャンプ台に挑戦する子も見られ、終了時間になっても「まだまだ滑り足りない」と声上がるなど、思い切り楽しんだ様子でした。



「紙」「アルミ」「プラ」など、いろいろなマークを発見

このごみ、分けたら何に生まれ変わるかな？ 「だいいじにつかおう」をテーマに親子で学習会

「五城保育園エコ学習会」が1月23日に開かれ、園児約40人と保護者らが参加しました。同園が普段から取り組む環境啓発活動を大人にも広げようと、保育参観日に合わせて実施。内子町役場環境政策室の職員が講師となり、ごみ収集に関する絵本の読み聞かせや、リサイクルマークがあるものを保育室から探すゲームなどをし、ごみの分別の大切さについて親子で考えました。

県市町広報コンクール・町部で特選 『広報うちこ』が14年連続で全国へ

令和7年愛媛県市町広報コンクールが1月15日に開かれ、『広報うちこ』が広報紙・町部で特選、一枚写真の部で入選、組み写真の部で佳作を受賞しました。特選に選ばれた1月号では、遊休農地の再生を目指す農家の若者たちを特集。「『ふるさとを守る』という農業者の思いが伝わってきた」と評価されました。広報紙ではこれからも町の皆さんの笑顔と輝きを紹介していきます。



1月号では遊休農地再生を目指す若者たちを特集

「みんなで広げる優しい心」をスローガンに 大瀬地区で人権を考える集い

「第39回大瀬地区人権まつり」が12月14日、大瀬小・中学校で開かれました。児童生徒や保護者による人権標語・作文発表、小田分校生の意見発表の後、中学生が創作劇を披露。「ハンセン病と人権」をテーマに、差別の歴史と他者を思いやる心の大切さを伝えました。最後は創作曲『明日へ』を手話を交えて合唱。参加者は「これからも差別しない心を持ち続けたい」と感想を述べました。



過去に差別を受けた女性が、学生と語らう一幕

正月は凧博が大にぎわい 恒例の「リアルすごろく大会」開催

「第5回大凧合戦リアルすごろく大会」が1月3日、五十崎凧博物館で開かれ、約200人が来場しました。参加者はサイコロを振って館内を進み、凧にまつわるカードを集めてゴールを目指します。各所でスタッフから展示の解説を受けて、遊びながら凧文化に親しみました。小池駿さん(6)=松山市=は「カード集めも、おみくじも楽しかった。来年もやりたい」と話しました。



得点に応じて、地元企業・団体が提供する豪華景品をゲット

地域の食文化を学び、味わおう 無病息災を願う「春の七草探し」

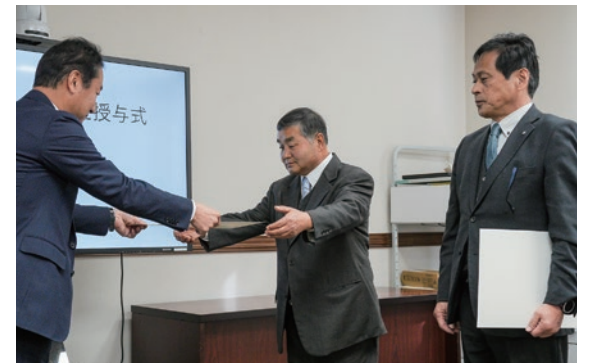
「春の七草探し」(内子児童館・内子自治センター共催)が1月6日に行われました。子どもたちは講師の芳我トシエさんから春の七草の種類を教わった後、沖田の田んぼへ。老人会の皆さんと一緒に草の特徴を確認しながら探しました。最後は内子児童館で七草がゆを実食。中岡夏彩さん(内子小2年)は「田んぼにあると知らなかった。初めて食べたけれど、おいしかった」と笑顔でした。



ゴギョウもハコベラも、いっぱい採れたよ

4年度から続くブナ原生林再生事業 千年の森公園が国の「自然共生サイト」に認定

生物多様性の保全活動を行う区域として国が認定する「自然共生サイト」に、小田深山・千年の森公園が選ばれ、1月22日に認定証が贈られました。NPO法人愛媛生態系保管理(山本栄治理事長)と内子町が取り組む「小田深山自然林再生事業」では、これまで四国産のブナ約2,000本の植樹、子どもたちへの環境教育などを実施。地域特性や生態系に配慮した活動が高く評価されました。



環境省四国事務所長から認定証を受け取る山本理事長